

ニッチ需要に焦点

県内各社 新製品を投入

景気回復の足取りは重いが、中小企業は生き残りをかけ待ったなしだ。

不況に強い低価格製品の開発やニッチな需要に向けた新製品・サービスの提供。農業や食品、医療関連といった不況下でも堅調な分野へ新製品の投入を加速するなど、知恵を絞って活路を見いだそうとしている。

工場やオフィスのIT化に着目したのは、アルファプロジェクト（浜松市東区）と、ケーテック（静岡県湖西市）の2社。「IT化したいが金がかかる」という企業の悩みを解決する製品を完成した。

アルファプロジェクトの入出力コントロール「CIE-H10」は、生産設備の稼働情報管理からオフィスのドアの開閉まで複数の装置をネットワーク化し遠隔監視、制御できる。入力8点、出力8点。自分のパソコンから簡単に操作でき、価

格も3万6540円と安く設定した。

ケーテックは省エネ・省スペース型パソコン「ne_co（ネコ）」を発売した。同社はFA設備設計が主力で、産業用コンピュータ分野は初めて。客先のIT化ニーズにこたえらるとともに、時流に乗ったエコ商品として販販を狙う。

ne_coは、台湾社製の超小型コンピュータ「ARTiGO（アルティゴ）」の中央演算処理装置（CPU）をパワ

ーアップし、メモリーとハードディスクを搭載した。年間消費電力は従来パソコンの3分の1。今回の製品を第1弾とし、シリーズ展開していく方針だ。

不況に強い農業分野に注力するのは、スナオ電気（浜松市東区）。農業用温室ボイラの制御装置「プログラムサーモ」に間欠運転モードを追加した新製品「PT-42D」を発売した。従来は室内温度が設定値に達するまでバーナーが点火し続け



省エネ性能に優れたケーテックの小型パソコン「ne_co（ネコ）」

るため、過剰エネルギーが入り理想温度を超えるケースがあった。今回、加温と休止を繰り返す間欠機能を加えたことで、

メロンや花などの農作物にとって最適な温度に制御でき、燃料コストも低減できる。